



担当:運営委員

活動記録

【実施日】 2025年1月17日(金) 【天候】 晴れのち曇り
 【参加者数】 69人
 【行程】 国立文楽劇場 正面入口前集合(10:30)・・・新版歌祭文 開演 11:00
 [座摩社の段 11:00~11:45 ... (休憩 25分) ...
 野崎村の段 12:10~13:35] ... 解散

一年中で最も寒い時期というこの日、そら組では初めての文楽観賞をしました。劇場前で集合写真撮影後、ワクワクしながら夫々の座席に着席。幕が上がリ、太くて重いという太棹三味線のバチの音と太夫の語りの義太夫節の迫力が心底に響き、何か物悲しくもあり、また、背筋が伸びる思いで聞き入っていました。座席は最後部でしたが、予想以上に人形が大きく感じ、人形の動きひとつで、表情や心情までもが感じ取れる人形遣いの妙技、三味線、語りが一体となって表現する独特の世界を楽しむことが出来、ひととき、外の寒さを忘れて、日本の良き伝統芸能に触れる貴重な日になりました。



展示室



太夫と三味線



座摩社の段



野崎村の段

【所感】

文楽の人形遣いと太夫の語りで、感情豊かに生き生きと表現されており、特におみつの心の葛藤が印象的でとても感動しました

以前観賞した時は眠気で殆ど覚えていなかったが、今日はイヤホンと双眼鏡で深く味わえた。地味な芸術が続いているのが不思議だが、今回しみじみ芸術の素晴らしさを味わえた



語り、三味線、人形遣いの呼吸が一体となった総合芸術に引き込まれ、時には、日本古来の芸術や話題の舞台鑑賞などの活動日があるのもいい



心中物はしんどい



浄瑠璃を聞きながら字幕を見るのが忙しなく、人形のしぐさを見る余裕がなかった

初めて文楽を観賞し、古典に触れる機会をいただき感謝

日本の伝統芸能を広く知ってもらう為の講座の案内を見て絶やさないとと思った

*撮影不可の為、大部分の写真はネットより引用